

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、ご家族、地域、スタッフのことを考えやさしくわかりやすい言葉で表し独自の理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、各ユニットに掲示し周知するようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットにも理念を盛り込み、ご入居者の家族への説明、地域のお便り、また運営推進会議でもホームとしての考えを伝え、助言等を受け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事の参加、隣近所の方と笑顔で挨拶を交わしたり、ホームの広報を配布し呼びかけている。近くの店に入居者様を連れて買い物に行くと顔と名前を覚えられ、ちょっとした会話ができるようになった。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	できる範囲で地域の行事には参加している。中学生の職場体験の受入れや、老人会での講義を引き受けたり、交流に勤めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の職場体験の受入れや、老人会での講演(認知症について)を引き受けている。	○	これからも運営推進会議のなかで町内の方と話し合っ て行きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を会議に取り上げ改善に取り組んでいる。評価を良く理解し、次につながるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの課題や問題、成功した取組み等報告し、意見・助言をいただき、ユニット会議等で検討しサービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設広報を作成した際には新発田市の介護保険課に直接手渡し、当ホームの待機者情報等報告し、疑問点、市の動向など情報交換するようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は理解している。スタッフは制度の名前や大まかな内容は理解しているが、細かい内容までは理解していない。	○	研修会や勉強会参加で学ぶ機会を確保したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同志虐待がないか、放置してないか、無視をしてないか、身体についた傷はないか注意を払い防止に努めている。見過ごされることがないように注意をしている。	○	会議等で管理者より高齢者虐待防止関連法案について学んだが、研修会参加で学ぶ機会を確保してゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得してもらった上で契約を結んでもらっている。その後も随時不安や疑問点については相談を受け付けている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情も時間をかけて傾聴し解決にむけ話し合い、ご家族にも報告している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の個人お便りの発行、2ヶ月に1回の施設広報で暮らしぶり、活動、金銭状況の報告を行っている。事故や急なけなどで金銭が発生した場合は随時報告している。また、ご家族面会時にも様子を説明している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに面会に来られた際、こちらから苦情や希望を聞くようにしている。またアンケートBOXを設置し苦情等を受付けて、内容により随時検討している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議、リーダー会議、2ヶ月1回の全体会議など意見・提案をきく機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務変更の話し合いを行い、上司がサポートに入って調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフが異動する場合は、メリット・デメリットを全体で良く検討した上で、不穏等にならないよう事前説明など利用者へも最大限の配慮をしている。		
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルは整備し、見直しはスタッフと相談しながら適時行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等スタッフに開示し参加するように促している。ホーム内の研修も適時開催している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会やお互いの施設見学会などを行っている。施設間で疑問点など随時連絡相談を行っている。	○ もっと頻回(定期的)に交流する機会をつくっていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1対1のヒヤリングや食事会を行い、ストレスの軽減を図るよう努力している。	○ 業務に時間の余裕が持てるように工夫しストレス軽減に努めて行きたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人が自己評価を行い、ヒヤリング等で努力や実績を評価している。	○ 勤務期間や実績により向上心が持てるように待遇面を考えたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	様子観察、会話のタイミングや機会を設けるようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話連絡、面会時の機会を大切に相談に応じるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や本人と家族の話を良く聞き、GH以外のサービスも含めて相談に乗っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを見学していただき、ユニットの雰囲気や説明し、本人・家族にめ		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は掃除、料理、昔からの伝わること等、利用者から学び、感謝の心を持ちながら接している。また、利用者の何気ない一言に感動したり、関心させられたりする。教え、教わる関係を大切にしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に報告することはもちろんのこと、ご家族と共に相談し考えながら、良い関係を構築できるよう努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	心身の様子を報告連絡相談するとともに、面会の促し、ご利用者が電話連絡できるよう支援し、よりよい関係作りに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が会いたい人、馴染みの場所などできるだけ時間を調整して会ったり、行ったりするようにしている。(理美容店、コンビニ)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席の配置やそのご利用者の性格、役割を考え協力して生活が送れるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設が変わっても時間の都合がつけば、様子を見に行ったりしている。 またご家族には「何か相談したいことがあればいつでも来てください」と説明している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを使用し、家族の言葉も考慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時、本人、家族、ケアマネ、サービス事業者から情報を収集している。また、利用後も、ご家族、親族、友人面会時や電話連絡にて、確認や情報収集し、経過の把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りやスタッフ同士の情報交換により総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式アセスメントを使用し、本人、家族、必要な関係者の言葉も考慮し介護計画に反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・必要な関係者と話し合い、それをもとに介護計画を作成・スタッフ同士検討し実行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく分かりやすく活かしている。少しでも変わったことがあればお互いに報告している。またプラン実行記録を毎日記録し計画見なおしに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買い物の代行など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア(歌・踊り)は随時受入れ、消防署立会いの下、避難訓練と救命救急訓練、高校生、中学生の職場体験学習など受け入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて本人・家族に他施設の情報提供や、同意を得た上で協力機関との情報交換を行っています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在事例は無いが、運営推進会議で包括支援センターとは、常に連携できる体制をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の協力医療機関、かかりつけ医に通院、往診など、適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近所の脳外科や精神科の医院とも協力医療機関の関係を結び、治療、相談できるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師もすべての利用者様の顔と状態を把握しており、気軽に相談できる関係を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、お見舞いでの声かけにより安心していただき、HPの看護師やSWと退院次期や入院による状態変化等、カンファレンスや電話連絡を通じ情報交換をしている。	○	スタッフに情報が行き届かない場合があるので、情報を詳しく共有できるようにしていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的依存が高い方への対応は難しいことは家族に入居前から告げている。状態が落ちてきた時は、かかりつけ医との相談、助言等、当ホームでの対応をその都度説明し同意を得るとともに、スタッフ間で共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルまでを目標にしているが、体制が整っていない。現在は本人・家族にGHで「できること・できないこと」を良く説明し、寝たきりや重度化した場合の対応を随時または必要時説明している。(他の施設の紹介等)	○	スタッフが安心して対応できるように何度も検討の場を設けていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の情報収集とスタッフの情報共有と本人への説明、入居時も再度十分な説明を行うようにしています。また、なじみの物をご持参下さるようお願いしています。一日でも早くホームになじみ他のご利用者とも仲良くなれるよう、スタッフが仲介したりし配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳やプライバシーを損ねず、その人のために思いやりの言葉かけをしている。記録にもプライバシーの保護に努めた書き方をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>その方に合わせた言葉遣いをしたり、本人の気持ちを汲取り尊重するよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その方の性格、生活歴を考えながら支援している。無理な声かけはせず、生活パターンを大事にしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ホームには月に1回美容師が来てカットをしてくれている。個別の店が希望であれば家族や、時間の都合がつけばスタッフが移動介助を行う。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜を切ったり、盛り付け、後片付け等していただいている。それぞれ出来ることをしていただけるように支援している。</p>	<p>職員と一緒に献立作りや食事作りをもっとやっていきたい。季節感の物を心がけたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の訴えを大事に受け止め、ご家族の了解を得ながら、個々の状況に合わせて支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴えがあるときはもちろんのこと、こまめなトイレ誘導を行ない気持ち良く排泄できるよう努めています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人員配置等の問題で、スタッフの都合で入浴日、時間を決めてしまっている。	○	時間は気分の乗らない場合などもあるので午前午後の都合はつくが、夜入浴したい好きな時に入浴したい、などの希望に添えていない。人員配置などを検討し対応していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファ、マッサージ機を設置、ウッドデッキで日向ぼっこをしたり、日中の体操や散歩など、気持ち良く過ごしていただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事、外食、買い物、その人の能力を活かしながら、掃除や食事の準備をしていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には持たせている。また、買い物精算時に本人にお金を渡し、物を購入するようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により買い物や散歩などで、スタッフ付き添いの下外に出掛けている。人員の問題ですぐに外に出られない場合もある。	○	個々に今一番行きたいところへ連れて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を聴き、行事計画に取り入れるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとき等、自由に事務所の電話を使用してもらってます。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄れるよう言葉掛けをしたり、お部屋に誘導し、ゆっくりと話ができる環境を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての説明を行い、理解を深めてもらっており現在、身体拘束は行っていない。	○	スタッフ全員が正しく理解できているとは言えず、定期的に施設内研修を行いたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害は理解している。できるかぎり鍵は掛けていないが、極端な不穏状態でスタッフが手薄な場合は一時的に施錠をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は基本的には2時間ごとの見回り、体調不良の方や重度の方は1時間置きに巡視している。日中もホールに居る方は目を配り声かけ、居室で過ごされている方も定期的に様子をみて声をかけて安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の能力、状態を把握し応じている。たばこ、ライターに関しては、事務室で保管し、本人がいつでもたばこを喫煙できるようにしている。また、保管してある箱を定期を確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告、事故報告書を両ユニットで共有、緊急時マニュアル会議で周知している。一人ひとりの状態の把握につとめ事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今年、消防署に依頼し、救命救急対応の講習を行いました。また、救急対応マニュアルを会議に取り上げ整備し、周知している。	○	定期的な訓練の場を設けて行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと年2回 避難訓練をおこない、運営推進会議でも地域の協力が得られるよう地域を代表する方と情報交換を行っている。	○	町内のより多くの方との協力要請を今後も話合っ行って行きたいと考えてます。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている	予測されるリスクは常に家族に説明をしており、ホームとしての対応策を説明・理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・入浴前の血圧測定、食事量、排泄の様子や顔色などの変化を見極め、申し送りなどで情報の共有に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の紙、個人ファイルを見るようにしている。副作用、用法、用量についてすべての社員が理解していると思います。	○	一覧表を作成し、分かるようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、運動、食事に気を遣い、排泄があったときは排泄チェックに記録し、取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、ご自分でできるかたは促し、夜間は、毎日、入れ歯をポリデントで洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じ、食形態をかえたり、糖尿の方には血糖値に気をつかい、肉、野菜等の栄養バランスを考え、その人に合わせた量を提供している。水分補給もまめに行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを整備し周知している。外出後は必ず手洗い、うがいを行っている。食器等の消毒、スタッフも咳が出るなどの場合はマスクを使用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具等、使用前に消毒を行い、手洗いの徹底と食材の賞味期限のチェックをきちんと行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には花壇や植栽を置き、親しみやすい雰囲気作りに努めている。また車椅子でも対応できるようスロープを設置しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り物、折り紙など、生活感と季節感を感じられるように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢で座れるソファ、たたみスペース、思い思いに過ごせるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ本人の使い慣れたものを持ってきて頂き、自宅にしているような雰囲気作りができるように、入居時、ご家族に説明しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホームにはトイレ、居室、ホール等に換気扇が付いています。また、天気の良い日は窓を開け空気の入替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンからは全体が見渡せるようになっており、床すべてバリアフリーで安心して生活できるようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱しないように物事は早めに声かけをし、ゆっくり理解できるように努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたりウッドデッキで日向ぼっこをして、お茶を飲んだり活用している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)